保存版

令和4年3月改訂

蓮田市 地震ハザードマップ

日頃の備えと、いざという時のために

地震ハザードマップとは、 地震災害に関する情報と避難方法などを市民のみなさんに提供することにより、日頃からの防災意識を高めるとともに、いざという時に避難行動がスムーズに行われ、被害を最小限にすることを目的とした地図です。

想定している地震について

埼玉県は、東日本大震災を踏まえ平成24・25年度に新たな地震被害想定調査を実施しました。首都直下地震に係る最新の科学的知見や埼玉県における過去の被害地震を踏まえ、5つの地震（活断層型地震は、地震による破壊開始の始まる位置の設定で、震度分布が大きく異なるため、関東平野北西縁断層帯地震は3パターン、立川断層帯地震は2パターンを想定）を想定地震として、地震に関する項目、それによる各種の災害、被害、影響などを予測しました。

■海溝型地震……茨城県南部地震、東京湾北部地震、元禄型関東地震の3つ

■活断層型地震…関東平野北西縁断層帯地震、立川断層帯地震の2つ

この蓮田市地震ハザードマップは、埼玉県が想定した5地震8パターンによる地震動を重ね合わせて最大の地震動を算出した結果をもとに作成しています。

なお、蓮田市域の地盤や断層の位置と規模などにより、実際の被害と異なることがありますので、注意してください。

地震のメカニズム

日本列島の周辺には4つのプレート（板状の堅い地殻）があり、年に数センチの速度で一定の方向に動いています。プレートどうしの運動により、プレートの境界や周辺で生じる「ひずみ」が地震を引き起こす原因です。日本では主に海溝型と活断層型の2種類の地震がおこっています。

地震発生のしくみ

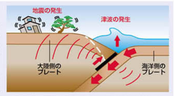
日本周辺のプレートの状況

日本列島の周辺には4つのプレートがあり、それぞれが別の方向に年に数センチの速度で動いています。

■海溝型地震

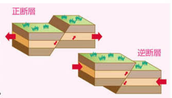
海洋側のプレートの潜り込みにより大陸側のプレートが引きずり込まれ、境界にひずみがたまり、限界に達すると元に戻ろうとしては入up り、地震が発生します。

プレート間地震は「平成15年十勝沖地震（マグニチュード8.0）」など、プレート内地震は「平成6年北海道東方沖地震（マグニチュード8.2）」や「平成23年東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）（マグニチュード9.0、国内観測史上最大）」などです。



■活断層型地震

陸地の地殻もプレートの運動によりいたるところで「ひずみ」が生じています。このひずみを解消するため、過去の地震により生じた断層（活断層）を震源として地震が発生します。「平成7年兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）（マグニチュード7.3）」「平成16年新潟県中越地震（マグニチュード6.8）」などは活断層型の地震です。



マグニチュードと震度の関係

マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の上の明るさの関係に例えることができます。同じ電球からの光でも、机がどの位置にあるかで机の上の明るさは異なるように、マグニチュードが同じ地震であっても、震源が遠ければ震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。

マグニチュード（以下Mと表記）は、 地震の規模を表す単位です。関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3、東日本大震災はM9.0（国内観測史上最大）でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

震度は、 地震の際の各地点の揺れの大きさを表します。ある地点が実際にどう揺れるかは、地震のエネルギー規模だけでなく、震源からその地点までの距離、地盤条件等に左右されます。

震度と想定される被害（気象庁震度階級表により作成）

4
- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

5弱
- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

5強
- 物につかまらないと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

6弱
- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強
- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりが発生することがある。

7
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

地震発生時の注意点

地震の揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら「あわてずに身の安全を守る」ことが鉄則です。発災後は、市の防災行政無線、ホームページ、安心安全メール、公式ツイッター、広報車、テレビ・ラジオ、緊急速報メール等で正しい情報を入手しましょう。

地震発生その時どうする

■まず身の安全を

強い揺れの間は、思うように動けませんが「落下物」「転倒物」「移動物」から離れて身の安全を図ります。

■落ちついて火の元確認（余震への備え）

揺れがおさまったら、ガス器具やストーブなどの火を消して元栓を閉め、電気器具の電源を切ります。

■戸を開けて出口の確保（余震への備え）

揺れてドアが開かなくなることもあります。玄関、部屋のドア、窓などを開けて避難口を確保します。

■あわてて外に飛び出さない

外ではガラスや瓦などが落ちてくることがあります。冷静に状況を判断します。

■家族の安否を確認

声をかけあって安否を確認しましょう。離れている家族とは、あらかじめ決めておいた連絡方法で安否を確認しましょう。

■近所の人と協力する

火事の初期消火や負傷者の救出・救護などを、みんなで協力して行いましょう。

周囲の状況に応じて

■人が大勢いる施設では

あわてて出口に走り出さないで、場内放送や係員の指示に従って落ちついて行動します。最新のビルや地下街は耐震性が高いので、むやみに外には出ないほうが安全です。

■路上や街中では

ブロック塀や自動販売機の転倒、看板やガラスの落下に注意し、頭をカバンなどで保護します。周りの指示に従って近くの公園や広い場所に避難します。

■地下街では

館内放送や係員の指示に従い、一つの非常口に殺到せずに地上に出ます。停電時は、非常照明がつくまでむやみに動かないようにします。

■エレベーターでは

すべての階のボタンを押し、停止した階ですぐに降ります。閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け、外部に助けを求めます。

■自動車運転中は

揺れを感じたら急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とし、道路の左側に停止します。エンジンを切り、揺れがおさまるまでは車内に留まります。避難するときは、車のキーはつけたまま、ドアをロックせずに窓を閉めます。

■鉄道・バス乗車中は

緊急停車・急ブレーキに備え、つり革や手すりにしっかりつかまります。乗務員などの指示に従って落ちついて行動します。

避難時の心得・初期消火

■避難の呼びかけに注意を

避難の呼びかけがあった場合、逃やかに近所の人たちと避難を始めてください。また、家族や親戚等に安否や避難先を伝えましょう。

■車での避難は控えて

車は渋滞して避難できないことがあります。また、他の避難者や緊急車両の妨げにもなり、危険です。車での避難は控えましょう。

■避難する前に

電気器具をコンセントから外し、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めましょう。

■初期消火について

火の小さい初期段階であれば、周囲の人に大声で知らせて協力し、消火器や風呂の残り湯などを利用して消火します。

地域での防災対策

被害を最小限におさえるために、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方が重要となります。自主防災組織に参加して防災活動を行いましょう。また、高齢者や体に不自由のある方は、災害時に困難なことが多いので、積極的に支援・協力しましょう。

自主防災組織とは

大規模災害が発生した場合、市や消防機関、警察機関は、総力を挙げて防災活動を行いますが、さまざまな悪条件が重なり、防災関係機関の活動能力は著しく低下することが予想されます。

このようなとき、被害をできるだけ少なくするためには、住民の自主的な防災活動により被害の防止または軽減を図ることが重要です。災害に対して地域住民一人ひとりが、組織的に行動し、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持って行う共助の活動が自主防災組織です。自主防災組織は地域のみなさんが連携して自主的に防災活動を行う団体で、自治会や行政区などの単位で結成されます。

■平常時

災害に備えるために、日頃から地域のみなさんに、防災知識・防災活動の必要性を理解してもらう活動を行います。

- 防災に関する知識の普及及び啓発
- 地区内の危険箇所、要配慮者の把握
- 避難所、避難経路の確認
- 各種訓練（消火、水防、避難誘導、救援救護）の実施
- 地元商店街等との連携
- 防災資機材の備蓄及び管理

■災害時

人命を守り被害の拡大を防ぐために、地域のみなさんが協力して、火災の初期消火や負傷者等の救出・救護などを行います。

- 火災の初期消火
- 対策本部の設置・運営、各班との連絡調整
- 市災害対策本部・関係機関の連絡、被害状況・災害情報の収集・報告・広報
- 人員の確認、地域住民の避難誘導、要配慮者の保護・安全確保
- 負傷者の応急救護、医療機関との連携
- 避難所の開設、運営の協力
- 救援物資の受入・配分、食料・飲料水の調達・配分
- 防災資機材の活用

要配慮者への協力

要配慮者（高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児・傷病者・日本語が不自由な外国人等）のうち、特に災害時の避難に援護を要する方は、避難行動や言葉の理解などで大きなハンデを負うことになります。地域のみなさんは日頃からコミュニケーションをとりあって、災害時には相手に適した誘導方法で早めの避難ができるように協力しましょう。

■高齢者・妊産婦・乳幼児・傷病者・日本語が不自由な外国人の方には

高齢者、妊産婦、乳幼児は、手をつなぐ、または背負うなどによりしっかり援護します。傷病者には複数の人で対応しましょう。急を要するときはひも等を使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。外国人の方で言葉が通じない場合には、声をかけて身振り手振りを交えて誘導します。

■目の不自由な人には

まず、「お手伝いしましょうか」などと声をかけましょう。話しかける相手の声が頼りなので、話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で話しましょう。誘導するときは、目の不自由な人の前に立ち、ひじの上を軽くつかんでもらい、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。

■車椅子を利用する人には

車椅子を利用する人の場合は、必ず3人で協力し、階段を上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。

■耳の不自由な人には

話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口をゆっくりはっきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、相手の手のひらに字を書いて筆談しましょう。

わが家の防災メモ

災害用伝言ダイヤル(171)、災害用伝言板(web171)、携帯電話の災害用伝言板は、毎月1日・15日や防災週間、正月三が日などに体験利用ができます。いざという時にあわてないために、家族みんなで体験してみましょう。

避難場所と連絡先

わが家の避難所

わが家の集合場所

家族の連絡先　血液型や職場・学校の連絡先なども書いておきましょう。

その他の連絡先

災害用伝言サービス

地震などの大災害が発生すると、固定電話・携帯電話は被災地への通話が繋がりにくくなります。災害時は、171の伝言ダイヤルや携帯電話の災害用伝言板などが有効な通信手段です。

NTT 災害用伝言ダイヤル（171）

固定電話・IP電話・携帯電話から、伝言を録音・再生できます。録音時間は1伝言あたり30秒です。

登録
「171」をダイヤルして音声案内に従って「録音」を選択し、「伝言を残す電話番号」を入力する（録音は端証番号の設定も可能）

確認
「171」をダイヤルして音声案内に従って「再生」を選択し、「伝言を確認したい電話番号」を入力する

NTT 災害用伝言板（web171）　[URL] https://www.web171.jp/

携帯電話・スマートフォン・インターネットから、伝言を文字入力・確認できます。文字数は1伝言あたり100字以下です。日本語の他、英・中・韓国語で入力可能です。

登録
「web171」にアクセスし、トップ画面で「伝言を残す電話番号」を入力して「登録」を選択し、伝言を登録する

確認
「web171」にアクセスし、トップ画面で「伝言を確認したい電話番号」を入力して「確認」を選択する

※災害用伝言ダイヤルと災害用伝言板は、それぞれで登録された伝言を音声で相互に確認できます。

携帯電話・スマートフォンの災害用伝言板

携帯電話各社（NTTドコモ、ａｕ、ソフトバンク、ワイモバイル）の携帯電話から伝言を文字入力できます。伝言の確認は携帯電話のほかインターネットからも可能です。※楽天モバイルは「災害用伝言板（web171）」の利用を推奨しています。

【使い方】
各携帯端末のトップ画面から「災害用伝言板」にアクセスし、画面の指示に従って操作をしてください。

公衆電話

公衆電話は、災害発生時でも通信制限が行われず、通常の電話や携帯電話よりもつながりやすくなっています。公衆電話の設置場所は、NTT東日本のホームページ「公衆電話設置場所検索」で確認できます。

【NTT東日本 公衆電話設置場所検索】
https://publictelephone.ntt-east.co.jp/ptd/map/

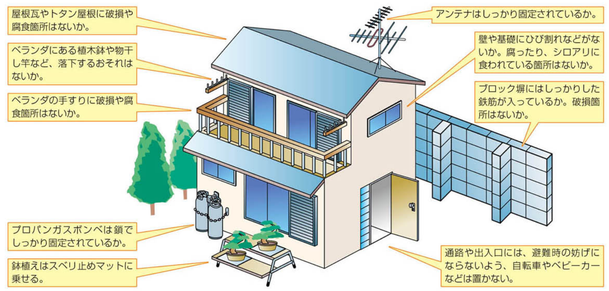
蓮田市役所
総合政策部危機管理課
住所：〒349-0193 埼玉県蓮田市大字黒浜2799-1
電話：048-768-3111（代表）

発行：平成29年2月（令和4年3月改訂）
https://www.city.hasuda.saitama.jp/

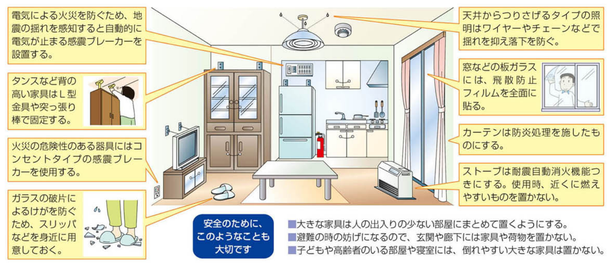
家屋の備え

地震対策は行政だけではできません。個人の生命や財産を守るためには、みなさん一人ひとり、あるいは家族が協力して日頃から備えておく必要があります。建物やその周囲、家の中の家具やガラスなど地震に対する安全性についてチェックし、対策をしておきましょう。

屋外の備え・点検箇所



屋内の備え・点検箇所



安全のために、このようなことも大切です

■大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
■避難の時の妨げになるので、玄関や廊下には家具や荷物を置かない。
■子どもや高齢者のいる部屋や寝室には、倒れやすい大きな家具は置かない。

蓮田市の耐震対策

近年、首都圏地域での大地震の発生が予想されています。地震による被害を最小限にとどめるためには、住宅の耐震性の確保が重要です。蓮田市では、耐震診断補助金制度、耐震改修補助金制度などにより耐震化を推進しています。対象者や建築物の条件、補助金額等の詳細は右記までお問い合わせください。
（令和4年3月現在）

問い合わせ
建築指導課建築指導・空き家対策担当
電話：048-768-3111（内線266）

日頃の備え

日頃から、家族で話し合い、非常用持ち出し品の準備や避難経路の確認をしておきましょう。また、自宅以外で被災する場合の用意もしておきましょう。

■家族会議を開きましょう

日頃から家族会議を開き、震災時の連絡方法や、家族の役割分担、避難時にはそれても落ち合える集合場所や避難所、家族や親戚の連絡先などを確認しておきましょう。

■家族の役割分担を決めましょう

避難する時に持ち出す荷物の分担や、火の始末をする係、電源（ブレーカー）を切り、ガスの元栓を閉める係、高齢者の安全を守る係などを決めましょう。

■避難所・避難経路を確認しましょう

自宅や学校・勤務先から避難所への避難経路を確認しておきましょう。平常時には実際に歩いて安全に通行できるかを確認しておきましょう。

■自主防災組織に参加しましょう

「自分たちのまちは自分たちで守る」ため地域で支えあう自主防災組織を自治会などで設立しましょう。

■非常用持ち出し品・備蓄品を事前に準備しましょう

大規模災害時に被災地まで救援物資が届くには、おおむね3日かかるといわれています。

非常用持ち出し品は必要最低限なものをリュックサックなどにまとめ、すぐ持ち出せる場所に保管しておきましょう。

備蓄品は、ライフラインが復旧するまで自給自足するのに必要な物です。保存状態や使用（賞味）期限などを定期的に点検・交換しましょう。

最低でも3日間（推奨1週間）必要な食料・物資を用意しましょう。

乳児のいるご家庭は、ミルク、ほ乳瓶、紙おむつなども用意しておきましょう。

備蓄品

水・食料
- □ 飲料水（1人1日3L×家族分）
- □ 食料品（レトルト食品、缶詰、ビスケット、チョコレートなど）

- ●最低限、3日分の食料、3日分の飲料水の備蓄をしましょう。
- ●赤ちゃんや病人がいる家庭では、十分な量を備蓄しましょう。

救急用品
- □ 各種医薬品（常備薬も）
- □ はさみ
- □ ピンセット
- □ 救急ばんそうこう
- □ 包帯
- □ キズ薬
- □ 消毒液
- □ カット綿

衛生用品
- □ 感染症対策品（マスク、アルコール消毒液、体温計）
- □ ウェットティッシュ、ティッシュ
- □ 歯磨き用具
- □ 簡易トイレ
- □ タオル

生活用品
- □ 懐中電灯
- □ 携帯ラジオ
- □ 予備の電池
- □ ナイフ・缶切り
- □ 簡易食器・スプーン
- □ ラップ
- □ ビニール袋
- □ ライター・マッチ
- □ ローソク
- □ ロープ
- □ 布ガムテープ
- □ 軍手
- □ レジャーシート
- □ 笛（ホイッスル）
- □ マーカーペン・筆記具
- □ カイロ

その他
- □ 上着類
- □ 下着類・くつ下
- □ レインコート
- □ スニーカー
- □ 防災ずきん・ヘルメット

非常用持ち出し品
- □ 飲料水、携帯食料
- □ 携帯電話の充電器（電池式）
- □ 現金（公衆電話用に10円硬貨）
- □ 携帯トイレ
- □ 本人確認書類（健康保険証、免許証、パスポートなど）
- □ 老眼鏡、セーターなど、季節や家族に合わせて準備しましょう
- □ 現金（硬貨含む）、通帳、印かんなどの貴重品は、防犯面も考慮しつつ、持ち出しやすいところに保管しましょう。

■交通機関が止まったときは

埼玉県を含む首都圏で大きな地震が発生した場合、公共交通機関が運行を停止し、外出中の多くの人が帰宅できなくなる可能性があります。

「むやみに移動を開始しない」が原則ですが、事情により徒歩帰宅する際の心得として「徒歩帰宅の心得7カ条」を覚えておきましょう。

徒歩帰宅の心得7カ条

留まる
1. 連絡手段、事前に家族で話し合い
2. 携帯も、ラジオも必ず予備電池

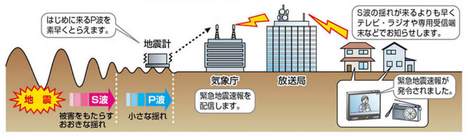
知る
3. 日頃から、帰宅経路をシミュレーション
4. 災害時の味方、帰宅支援ステーション

帰る
5. 職場には、小さなリュックとスニーカー
6. 帰宅前には、状況確認
7. 助け合い、励まし合って徒歩帰宅

情報の収集

震災に対して適切に対応をするには、正確な情報の収集が必要です。テレビやラジオなど報道機関のほかに、緊急地震速報の活用や市役所からの呼びかけにも注意して、最新の気象情報・災害情報・避難情報を把握しましょう。

緊急地震速報について



地震の際は、P波と呼ばれる小さな揺れの後、S波と呼ばれる大きな揺れが来ます。緊急地震速報は、このP波をとらえ、地震の規模や震源地を予測し、大きな揺れのS波が来る数秒から数十秒前に発表するものです。震度4以上の揺れがあると予測された地域に、テレビやラジオを通じて気象庁が発表します。この緊急地震速報は、震源の近くでは大きな揺れに間に合わないこともあります。予測震度で、プラスマイナス1程度の誤差もあります。わずかな時間を活かし、地震の被害を減らすことができるものとして、開始されました。

ホームページ・SNSで情報を収集

蓮田市公式ホームページ
避難情報や避難所の開設状況など、市内を中心とする情報
https://www.city.hasuda.saitama.jp/

蓮田市公式LINEアカウント
https://page.line.me/hasudacity

蓮田市公式ツイッター
https://twitter.com/hasuda_city

埼玉県 危機管理・防災・防犯等 彩の国の安心・安全
県内の避難情報や天候などの情報
https://www.pref.saitama.lg.jp/theme/anzen/index.html

防災・危機管理eーカレッジ
災害の備えや基礎知識などを学ぶことができます
https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/

消防防災博物館
消防防災に関する知識などを掲載
https://www.bousaihaku.com/

Yahoo! 防災速報（アプリ）
https://emg.yahoo.co.jp/

NHKニュース・防災（アプリ）
https://www3.nhk.or.jp/news/news_bousai_app/index.html

メールで情報を受信（※事前登録が必要な場合があります）

蓮田市「安心・安全メール」
蓮田市の防災行政無線で放送した内容（防災・防犯・イベント情報）をメールで受信できます。事前に登録が必要です。登録料は無料ですが通信料は利用者の負担となります。登録用メールアドレス（t-hasuda@sg-m.jp）に　空メールを送信後、受信した登録用返信メールの指示にしたがって登録してください。

携帯電話の登録ページ→

埼玉県「防災情報メール」
気象警報や地震などの防災情報をメールで受信できます。事前に登録が必要です。登録料は無料ですが通信料は利用者の負担となります。
https://www.pref.saitama.lg.jp/a0402/903-20091202-28.html

携帯電話の登録ページ→

緊急速報メール
災害時の避難情報などを、対象エリアにいるNTTドコモ、ａｕ、ソフトバンク、ワイモバイル、楽天モバイルの携帯電話・スマートフォンの利用者に一斉配信するサービスです。
使用料金や通信料などは無料ですが、受信設定が必要だったり未対応の機種もあるので、自分の携帯電話・スマートフォンが受信可能な設定になっているかを確認しておきましょう。

防災行政無線で情報を入手

蓮田市では防災行政無線で防災情報を放送します。聞き逃してしまったときなどは、右記の方法で放送内容を確認できます。

■防災放送確認ダイヤル ……電話048-765-8671
24時間以内の放送内容が自動音声案内で確認できます。
■蓮田市公式ホームページ ……URL https://www.city.hasuda.saitama.jp/
■蓮田市 安心・安全メール ……事前登録が必要です。詳細は上記をごらんください。